

技術者教育認定制度に何を求めるか? : 教育の質と大学人、そして産業界

家田 仁
論説委員
東京大学大学院・教授(社会基盤学)



JABEE (技術者教育認定機構) による技術者教育プログラムの認定制度は、「PDCAサイクルによるスパイラルアップ」などといったISO的なマネジメント思想に立脚し、各教育主体がJABEEという外生的な制度フレームによって、主として学部教育の質の維持・向上を図るというものである。就学層の人口減少に伴う大学間競争の激化や景気低迷の中での就職の不調により、大学経営の危機感が募る中、こうした教育の品質保証を通じて、よい学生を集めることやよい就職先を確保することが、認定を受ける大学の期待でもある。2002年から始められた土木分野では、昨年度までに計63の学部教育プログラムが認定され、17の技術分野の中でも機械分野と並んで大きな規模となっている。この躍進的増加には、上述のような大学の「期待」が生み出す「バスに乗り遅れるな!」といった心理の寄与が否定できない。土木分野では、いわゆる有名国立大学では北大、名大、阪大、東工大が加わっているものの、ほとんどは地方国立大学と私立大学で、東大、京大、九大はいずれの技術分野でも認定を受けていない。「本音の期待」を垣間見る思いがする。

認定を受けた大学の友人たちによると「ひどくズボラな先生はいなくなった」そうで、教育質の管理という面では相応の成果を挙げているようである。その一方では、「(継続を含めた) 認定を受けるための作業や、教育活動の記録保存などに相当の作業が強られる」、「所定の授業日数などに過度に拘束される」といったボヤキ声も少なからず聞かれる。そうなってくると、認定制度が、大学側の「よい就職先を確保する」、「よい学生を集める」という「本音の期待」に対して、どれほどの実質的な効果を挙げているのか、という点が問われることになる。本来の意味でのユニークで質の高い教育が、学生や産業界に対してなにがしかのアピールとなることは明らかであるが、ある大学が「認定」といういわば公式資格をもつということが、高校生や産業界に対し特に強いアピール性を発揮するものとは筆者にはどうしても想像できない。民間車検場や自動車教習所の「認定」が「怪しい業者ではない」ということ以上の意味を持たない事実と、どれほどの差異があるだろうか。

一方、「産業界は、大学が基礎学力や問題設定力、創造性、コミュニケーション能力を確実に身に付けさせることを望んでいる」とされ、だから認定制度に参加すれば産業界からも喜ばれる、などとする論調が登場するわけだが、この点も疑問である。就職協定がない今、大学3年生や修士1年生の秋くらいから翌年の初夏くらいまで半年間、学生は、本来の学業などそっちのけで「就活」に励むのが当たり前のようになっている。企業はそうした風潮をあおりたて、セミナーなどと称して学生を呼びつけては拘束する。日本企業が「大学教育を重視している」とはとても思えない。学部教育とは別の話だが、博士課程修了者の産業界での受け入れや処遇の悪さも日本企業の特徴の一つで、それが日本人の博士課程進学における世界でも稀に見る大きな障壁となっている。もし大学教育の質と産業界=就職を結び付けて考えようとするのなら、ここらあたりから抜本的に変えるのではなくては効果はなかろう。認定制度のようなものだけによって意味のある変化を期待するのはあまりにもナイーブというものだ。

そうして見ると、教育プログラム認定制度に期待できる成果は、学生集めや就職といった二次的な効果ではなく、やはり教育質の維持・向上という本来の機能に限定されることになる。筆者の勤める東大・社会基盤学専攻が認定制度に参加しない理由は、「東大は学生集めや就職先に困っていない」からではない。専門学科が決まる前の教養学部教育に1年以上を費やす東大の教育システムがこの認定制度と相性が悪いこともあるが、当専攻ではこれまで定期的なカリキュラムの抜本改正や個々の授業の質的向上に常時取り組んできたので、わざわざ JABEE のような外生的な仕組みの中で認定されることの必要性を見出せないからである。さらに言えば、当専攻では、時に「破格」の内容の講義を作ったり、必要と思ったらカリキュラムを相当なスピード感覚でフレキシブルに改良しており、こうしたスタンスも恐らく認定制度にはなじまないだろう。

「教育の質」は、大学の中心商品である。その商品の絶え間ない改良は、生産者である大学人の本来業務であるし、また自律的な仕事の「喜び」の源泉でもある。そうしたもともと創造的な改善作業を外生的な仕組みの中に埋め込み、外生的な価値観と時間軸の中で行っていくというのは、やはりどこか違っているのではなかろうか。「教育の質」の維持・改善は、大学の規模や知名度とは全く無関係に実施可能である。もしそうした自律的改善が出来ないというならば、それはもはや教育の問題ではなく、組織運営の問題というべきだろう。